

山陰本線複線化事業



日本共産党・住民協働市会議員団
高野 美好 議員

経済危機から 住民生活を守れ

市民生活安定に努力 **市長**

問 政府は、三年前に小泉内閣が「白紙だ」と明言し凍結した高速道路や巨大港湾の整備に、総額2兆6千億円費やすとしている。
新たに発行される10兆円もの国債によって膨らんだ赤字の付けは、「消費税増税」で国民に負担が押し付けられる。
そのことをしっかりとふまえ、今後の財政執行に当たられるよう、まず求める。そこで、特

別交付金の有効活用が重要であるが「ふるさと雇用再生特別交付金」と「緊急雇用創出交付金」は、雇用情勢の悪化に対応するための交付金となっており、本市へは、約7千万円が交付される。雇用創出という緊急性のある事業性格からして、本年度で完結すべき事業と考えるが。
市長 雇用の創出、市民生活の安定は喫緊の課題と受け止め対応する。また事業は3年間とな

っているが、事業の趣旨に沿って、早急な対応が必要であると考えている。
地元企業に優先発注を
問 「地域活性化・生活対策臨時交付金」事業の内容を見ると、山陰線複線化事業補助金約5千9百万円が含まれているが、交付金をわざわざ充当すべき事業とは思われない。また、工事請負費や備品購入費が事業の大半を占めているが、地元中小業者、すなわち旧町毎の業者

に優先発注されなければ、地元経済を潤すことにはならないと考えるが所見を伺う。
市長 山陰線複線化事業への組み替えは、市の財政状況を鑑みる中での措置である。
また、市内業者への発注を優先することは当然であると考える。

全面改修が待たれる板野川



活緑クラブ
川勝 儀昭 議員

国民のための臨時交付金は 市民のために使われるべきである

財政も考慮し、許される範囲で活用する **市長**

問 昨年度の地域活性化・生活対策臨時交付金の内1億3千万円が今年度に基金として繰り越された。今議会その基金取り崩しの約45%にあたる5千9百万円がJR複線化事業負担金に充当されている。直接市民のために緊急的な景気雇用対策、生活対策、地域活性化対策に使われるべきであると考えるが所見を伺う。
市長 速やかな地域活性化の施策をと考えている

が、永続的な健全財政も考慮し、許される範囲で一般財源として範囲を広げ、JR複線化事業にも活用させていただく。
池ノ内ほ場整備完了を
指し、板野川改修が急務
問 24年度完了予定で池ノ内地区ほ場整備事業が進められているが、板野川改修と下流域にあたる吉富駅西區画整理事業が課題となっている。河川改修には、仮設掘りや調整池等の暫定措置も考えられる。また区画整理実

施に向け、行政として留地処分や企業誘致等の前向きな材料提供が必要であり、強力な行政主導が必要と考えるが、所見を伺う。
市長 ほ場整備事業は、計画変更せざるを得ない時には暫定措置等も考えていく。また、区画整理の進捗により用地捻出の措置をとる手法を考え、様々な環境整備に知恵を絞り、組合設立と事業認可に向け全力を尽くす。
消防団組織を中心とする

防災体制の確立を
問 少子高齢化も伴い、消防団員の構成年齢は上昇し、定数確保も困難な地域も出てきている。この状況をふまえ今後の防災体制について所見を伺う。
市長 地域課題を洗い出し、組織の見直しや活動体制について消防団で議論をいただいている。組織の方向性、防災体制のあり方も含めて検討していく。

公立南丹病院



丹政クラブ
谷 義治 議員

南丹病院産婦人科医師の確保を

府立医大等と連携をはかり努力する **市長**

問 子育て支援のスタートは、安心できる分娩施設があることである。南丹病院の産婦人科は地域の中核施設である。どんなことがあっても医師を確保し継続させていくことである。住民不安を与えないメッセージが必要と考えるがどうか。
市長 南丹病院産婦人科は、中部医療圏における唯一の通常出産、ハイリスク分娩に対応できる病院である。今、医師の確保は、憂慮していると

ころであり、府立医大、京都府庁に行つて、医師確保に努力している。これからも実現に向け努力する。
火葬場建設の決意は
問 府内外の火葬場を視察して、本市の施設はお粗末で、死者に対して申し訳なく思う。市長の気持ちと決意を伺う。
市長 私自身この新しい施設の必要性は十分認識している。衛生管理組合の本年度予算の中に、基本計画策定のための経

費が計上されている。京丹波町と連携して重要な課題である火葬場の早期に検討していく。
新光悦村の企業誘致と
佛光大学の学部誘致は
問 新光悦村の企業誘致の現状と団地内サービスの設置は必要と思うがどうか。また、佛光大学の学部誘致のその後について伺う。
市長 分譲地の購入企業7社うち操業中は5社。進出表明企業3社。進出検討企業4社となっ

ている。このコンセプトに合致した小規模区画の工場の誘致促進に努力する。ソフト事業的な部分については、京都新光悦村企業の会といった組織構築を考えている。
佛光大学の学部誘致については、大学として放っておかないと言っているの、定期的な協議を行う。

市道船岡熊原線



南風会
村田 憲一 議員

「だいつぼ」を 早く通して

通行止め解除を目指す **市長**

問 市道船岡熊原線の通称「だいつぼ」の通行止めの解除を望む。この通行止めは、旧町の時からで、足掛け9年間、約500mの間とは言え、通行止めのままである。南丹市、広しと言えども他にはない。早急に担当課で、綿密な調査を行い、大丈夫と言う結論が出れば通行止めを解除され、大手を振って通れるよう願っている。市長の考えを伺う。

市長 通行止めを長期間おこなってきた事に対し、大変遺憾に思っている。また、これまで策を講じなかつた点も反省している。早期に通行止め解除を目指して努力する事を約束する。
高屋大戸間の改良は
問 昨年12月議会で伺った高屋大戸間の改良工事は、いつ頃に着手されるか伺う。
市長 最終的な詰めをしている。早急に結論を出し、秋口には着手

する方向で準備を進めている。着工すれば、完工も早く出来るように考えている。
府民公募型公共事業に
何力所応募するのか
問 公募期間は4月15日〜9月30日までである。
府全体で60億円の予算がついている。市に先立ち、川辺地区では、府道園部亀岡線の船岡地内「越方大橋」西詰に信号機の設置を、5団体の署名を添え応募

した。今回の公募は安心安全に目を向けた事業で、魅力を感じている。本市は何件位応募されるのか。
市長 市としては安全のため改善の必要があるものの中から提出を行うべく準備を進めている。この中で具体的には、河川の浚渫、路面修繕、段差解消、ガードレール等、概ね30から40カ所の提出を考えている。